

長岡工業高専 学員 森 将恒

長岡工業高専 正員 湯沢 昭

1. はじめに

歴史的・地域的に継承されてきた「市」は、出店者の後継者問題や車社会への対応の立ち後れ等に伴う顧客の減少により、必ずしも活気を帯びたものではないのが現状である。しかし、「地域の活性化対策」や「賑わいのある街づくり」の観点から見ると、今後とも継承する必要があるものとする。本研究は、地域活性化対策の観点から「市」をとりまく問題点の把握、必要な施設の整備や対策に関して検討を行い、今後の「市」の継続と振興を図ることを目的とする。

「市」の実態を把握するため東北6県と新潟県の全市町村519箇所を対象として、アンケート調査を実施した。調査の内容は、個々の「市」の名称、開催場所、出店数・販売品目、それぞれの「市」の抱える問題点等、全55項目から構成されている。回答件数は199件であり、その中で実際に開催されている「市」の総数は79件であった。本論文においては、これら79件の実態分析と、その結果に基づいて「市」をとりまく問題の構造化分析を行い、今後の「市」の課題について検討を行う。なお、構造化分析のための手法としては、DEMATEL法を採用する。

2. 実態調査の結果と「市」を取りまく課題

「日本書紀」によると5世紀に大和(奈良県)に軽市、河内(大阪府)に餌香市が開催されいたことが判明し、これらが日本最古の「市」と思われる¹⁾。当時の「市」は主に各地方の氏族共同体、あるいはその首長達の間の物々交換のために開かれていたと言われている。このように「市」の起源は非常に古いものであるが、本調査により得られた79箇所の「市」の起源を整理したものが図-1である。図から明らかなように昭和が最も多く全体の44%、次いで藩政以前の27%となっている。このように昭和以降に開催された「市」が半数以上を占めており比較的新しいものが多いが、歴史的に古いものも多く見ら

れる。「市」の形態としては、図-2に示すように「一日市」と「朝市」が主なものである。「市」の開催期間は、年間を通して行われているものが全体の約60%を占めており、残りの大部分は4月から11月の間に開催されている。年間を通して行われている「市」の開催回数は、30~40回と70~80回が最も多いことから3斉市と6斉市の開催が多いことが分かる。開催場所としては道路が最も多く全体の56%を占め、次いで広場の31%となっている。特殊な場所としては、アーケードの下や建物内、漁港等の回答もあった。道路で開催される「市」は市町村道で行われているものが大部分で、通常は車両の通行があるところが80%以上を占めており、開催時には車両の通行を禁止している所が多い。従って、交通量の増加に伴い、場所を移転した「市」も見られた。

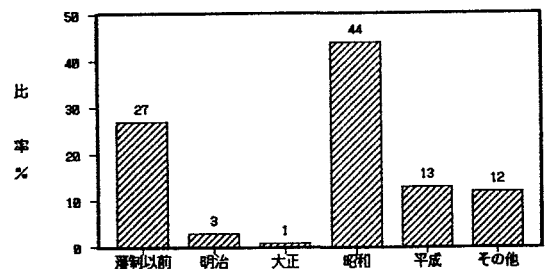


図-1 「市」の起源

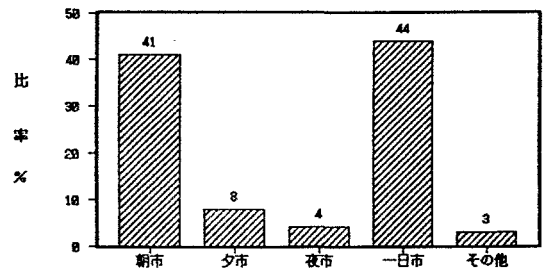


図-2 「市」の形態

また、「市」が道路で開催される場合、雪処理の問題がある。すなわち、新潟県や東北地方の多くは多雪地域であるため、「市」の開催前や開催中の除雪をどのようにするかは重要な問題である。現状では、出店者側で行っているが、出店者の高齢化等を考えると何らかの対策が望まれる。「市」で取り扱われている商品としては、図-3に示すように全体としては衣料、鮮魚、青果、菓子、苗木がほぼ同じ位の割合であるが、地域によりかなりのバラツキが見られる。

「市」の開催に当たり問題点として指摘されたものとしては、出店者や来店者用の駐車場の不足やトイレ等の施設整備の立ち後れが挙げられた。特に駐車場の整備がなされていない「市」は全体の68%を占めており、「市」の開催時にはその周辺に違法駐車が多く見られ、また通過車両の妨げにもなっている。図-4は、給排水施設整備の状況を表わしたものであり、両方とも整備されていないが全体の約半数を占めている。これは特に生鮮魚類等を扱っている場合に問題となり、結果として周辺に臭気や汚水を垂れ流す結果となっている。このような場合、「市」によっては町内会に迷惑料を支払っているケースもある。以上の調査結果と現地におけるヒアリング調査の結果を参考に「市」を取りまく問題点を以下のように整理した。

(1) 施設整備の問題

- ①出店者・来店者用駐車場 ②出店場所の確保
- ③水道、電気、トイレ等の施設整備
- ④雪処理の問題

(2) 周囲への影響

- ①路上駐車 ②交通への障害 ③景観への配慮
- ④臭気やゴミ問題

(3) 出店者側の問題

- ①開催日や開催時間帯の制約 ②出店者の高齢化や後継者問題 ③商品価格の問題 ④商品の季節性の薄れ ⑤商品の衛生上の問題

(4) その他の問題

- ①若者層の関心の低下 ②歴史的・文化的保護の問題 ③商品の品数 ④行政の補助
- ⑤「市」のPR不足

以上の問題点の構造化を図るため、行政担当者と「市」の責任者を対象としたDEMATEL調査を行うこ

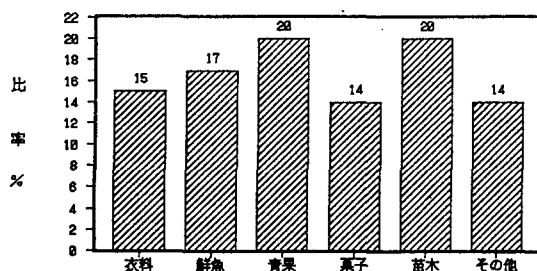


図-3 「市」の出店品目の種類

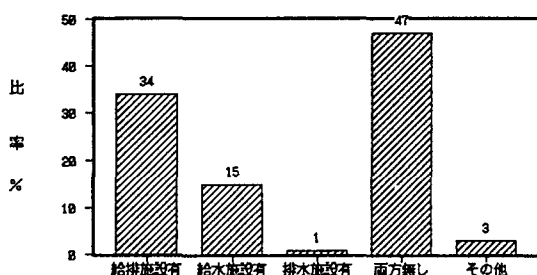


図-4 給排水の有無

とにする。なお、調査地域としては、新潟県、秋田県、及び青森県である。

3. おわりに

本研究は、「市」の現状と課題について検討を行ったものである。「市」は古くから商業施設としての性格と同時に住民のコミュニケーションの場としての性格を持ち合わせてきたが、近年の自動車社会の到来や商店街の高度化により「市」の役割りは必ずしも十分機能していない。しかし、地方都市や過疎地域の市町村における「市」の振興は、地域活性化対策として十分可能性があるものと考えられる。事実、79箇所の「市」の中で82%が「活性化対策に十分なり得る」と回答しており、また73%が「街のにぎわいを向上させる可能性」を指摘している。そのため、「市」を取りまく課題を整理し、問題点の明確化とその結果に基づく対策が必要がある。DEMATEL法による構造化の結果については講演時に報告する。

参考文献 1)日本大百科全書、pp.400、小学館